

Annual Report 2021

2021年度 年次報告書



特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会



Annual Report 2021 INDEX

代表挨拶.....	3
活動ハイライト	4
一年間の流れ	6
学生インタビュー	8
事業報告	
地域活性化分野	11
環境保護分野	12
国際協力・災害救援分野	14
子どもの教育支援分野	15
その他の事業	16
研修	17
IVUSA を支援してくださっている企業・学校の紹介	18
協賛・メディア掲載一覧	20
収支報告	21
団体概要（29 期学生組織）	22

代表挨拶

IVUSA は、1993 年にラオス人民民主共和国で小学校建設活動を行ったことからスタートし、2022 年で 30 年目を迎えました。この間、「若者でもできる、若者だからできる」社会貢献活動を、それぞれの年代の学生たちが考え、その学生たちの熱意に動かされ、多くの方々の賛同を得て、活動してきました。

気づくと、国際協力・環境保護・災害救援・地域活性化・子どもの教育支援の 5 つの分野を中心に 6,184 事業を実施。これまで延べ 138,268 人が参加しました。

これらの活動の実現には、様々な方々との出会いがあり、その方々の献身的なご支援・ご協力によって、実行することができました。改めまして心から感謝申し上げます。

昨今、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）やロシアのウクライナ侵攻、急激な円安などなど、社会の不安定要素が拡大する一方で、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）についても一時の「ブーム」を経て、社会全体の意識が下がっているように感じます。改めて将来を見据え、重大な過ちを犯さぬよう、一人ひとりが考え、行動しなければならない時だと言えるでしょう。

また、昨年は IVUSA もコロナの影響で大規模な活動は中止し、小規模の活動とオンラインによる活動を実施（570 事業 4,480 人）し、何とか SDGs に貢献することを目標に活動を維持してきました。やむを得ないこととはいえ、活動地の人たちはもちろん、学生にとっても歯がゆい期間となりました。

そして、このコロナによる制約は、IVUSA の学生だけではなく、一般の学生にとっても、出会いや学びの機会を失う結果となっており、彼らの今後の人生に大きな影響を及ぼすのではないかと危惧しています。

そのようなことも含め、社会の不安定要素が拡大する中、様々な問題を認識しつつ、「若者でもできる、若者だからできる」というこれまで通りのスローガンを掲げ、社会課題の解決に挑んで参りたいと考えております。今後もより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、コロナによって、アルバイトができなくなった学生に対して、IVUSA の卒業生が学生支援として寄付金を募ってくれました。この寄付金は、学生たちが活動地に向かう際の PCR 検査の費用に充てております。この場をお借りして、改めて感謝とご報告申し上げます。

特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠



現地に行かなくてもできる国際協力

今年度は、2019 年と 2020 年の活動で訪れたチョンコ村（コンボンチャム州コッピアン島）の子どもたちを対象に、手洗いや歯磨きの大切さを伝える衛生教育プログラムをオンラインで実施しました。

コロナ禍といえども国際協力分野に関心を持つ学生は多く、約 60 名の学生が参加しました。ほとんどの学生が現地活動の経験がなかったこともあり、活動のカウンターパートや国内に在住するカンボジア出身の方、OBOG からお話を伺い、本活動がこれまで取り組んできたこと、背景にあるカンボジアが抱える課題について、学んだ上で活動に臨みました。

活動当日は、プログラムに参加していた村の子どもの一人が、過去の活動で村を訪れた学生を覚えており、互いに久しぶりの再会を喜ぶ場面もありました。現地活動の経験がない学生にとっても、活動を通じて生まれる活動地域の人々との繋がりを実感した出来事でした。

プログラム実施にご協力いただいたカウンターパートや村の方々からは、「子どもたちは積極的に参加し、大喜びだったように見えた。子どもたちにとっては本当に特別な日になったかと思う」というお言葉をいただきました。現地に足を運び、直接アクションを起こすことができない状況ではありましたが、本活動に携わった学生一人ひとりが「活動地域のために」という姿勢のもと取り組んだ結果ではないかと思います。

今後も、様々な方法を模索しながら、現地の課題解決に貢献していきます。

High

大規模かつ宿泊型の活動が IVUSA の活動の

しかしコロナで「通常プロジェクト」が中止にせざるを

その一方、そのような制約があったからこそ、この 2 年間

それらの取り組み

オンラインでもここまでできる！

地域活性化を支援するための活動として、地域内の方々が地域の魅力を再発見すること、そして地域外の特に若者に熊野市を知ってもらい訪問につなげることを目指して、「地域の魅力を知るためにインタビューを行う」「インタビューを通して知った熊野の魅力を第三者に発信する」という 2 つの軸で活動を実施しました。

11 月の活動では「CHILL くまの（CHILL は「くつろぐ」「ゆったりする」など若い世代が使用するワード）」「あるくまの（歩くと熊野の造語）」「神秘とくまの」の 3 つのテーマを軸に地域の魅力の発信をしました。3 つのテーマに沿って行きたい場所を事前に調べてから、熊野の各地を訪れ、取材を行いました。情報の発信は SNS だけでなく、専用のウェブサイトを作成しました。

また、2 月から 3 月の活動は対面では行わずオンラインで実施しました。バーチャル定置網漁体験や、地域のお菓子をオンラインイベントの参加者全員に事前配布し、実際に熊野を訪れたような雰囲気味わえるように工夫しました。

その他には、地域の人たちにオンラインでインタビューを行い、その内容を参考にしながら「妄想旅行プラン」を考えました。この時に考えた妄想旅行プランは、日を改めて熊野を訪問し、プラン通りに巡って体験しました。



少人数・日帰りという 「ニューノーマル」な活動

海洋ごみやマイクロプラスチックの問題が社会的に注目されていますが、少子高齢化が進んだ地方においてはゴミ拾いをするボランティアが高齢化するとともに数が不足しており、問題に対する対処が十分にできていない状況です。またコロナ禍による活動機会の減少により、清掃活動やイベント企画・運営する学生の経験やノウハウの継承に支障をきたしています。

そのため、清掃活動を企画・運営できる学生リーダーの育成を目指し、全国各地での清掃活動、海ごみ問題に関するオンライン講演会・ウェビナーを実施しました。

当初 8 月から 9 月に予定していた会員による大規模な海岸清掃活動が、8 月の感染者急増（第 5 波）のため、すべて中止となり、感染が落ち着いた 10 月から 12 月にかけて小規模の河川・地域清掃を中心に実施しました。

【海岸清掃】全 9 回 延べ 333 名参加
【地域・河川清掃】全 32 回 延べ 615 名参加
【講演会・ウェビナー】

●8 月 6 日に海洋ごみ問題におけるパートナーシップの重要性を学ぶオンライン講演会を開催（講師：NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム事務局長・今村 和志氏）参加者 52 名

●9 月 10 日に海洋ごみ問題に関する大学生主催のオンラインワークショップを開催 参加者 150 名

●3 月 3 日に石垣島の海洋ごみ問題に関するオンライン講演会を開催（講師：石垣ビーチクリーンクラブの江尻栄子氏、笠原利香氏、佐藤紀子氏）参加者 36 名

●島根県出雲市で開催された「熱源サミット」（11 月 11 日～12 日）に 2 名参加



一番の魅力だと私たちは考えてきました。

得ず、学生たちは多くの悔しい思いをしてきました。

で様々な新しい活動や取り組みが生まれてきたのも事実。

を紹介します。

コロナ禍があったからこそ始まった活動

コロナ前から 10 年ほど、新潟県にある児童養護施設の子どもたちに対して定期的に支援活動を実施していました。学生たちと過ごす時間は子どもたちの成長と回復にとってとても大きな効果のある活動でしたが、主な会員の居住する首都圏、近畿圏からは物理的な距離があり、現地での活動は年に 2 回程度と限界がありました。

将来自立をしていかなければならない子どもたちの生きる力を育むにあたっては、日常的な支援を必要とする【学習】という側面はその基盤になります。

また、他者とのコミュニケーションに慣れること、人と関わるためのセルフコントロールや自己開示方法を覚えることはとても大切な要素で、継続的な関わりが必要になります。

コロナ禍で、授業や会議などで Web 会議ツールの活用が広まったことから、オンラインでの週に一度の学習支援を開始しました。継続的に活動を行うことでコミュニケーションを取る時間が増え、今では学生とお話することをとても楽しみにして参加してくれています。また、調子を崩したときに自分でコントロールし立て直す、コミュニケーションの中での反応速度が上がるなどの変化が見られ、その成長した姿を職員さんとともに心から喜んでいます。

物理的距離によらず日常的な支援をすることができる場として、社会がコロナ前と同じように戻ったとしても、活動を継続し、広げていきます

IVUSAの1年間

4～5月「新歓」



オンラインで説明会や
交流会を開催しながら、
IVUSA で一緒に社会問題に
取り組む仲間を見つけました！

7月「初夏トレ」



ボランティア活動に向けて、
オンラインで研修を行いました！
コミュニケーションスキルや
リスクマネジメントなど最高の
パフォーマンスができるように学ぶ
大切な研修です！

5月「オンライン報告会」



昨年1年間の活動報告を行いました！
全国のIVUSAの学生がYouTubeで
生配信される熱い報告を
パブリックビューイングで見ました！

8月～9月

「夏のボランティア活動」



地域活性化、環境保護を中心に
全国各地の社会問題に対して、
泊まり込みで活動を行うのですが、
今回はコロナでほとんど実施
できませんでした。

with コロナ

～2021年バージョン～

10月～11月「学園祭」



学校によって様々ですが、
対面の学祭は屋台を出したり、
IVUSA の活動をまとめた展示を
行ったりします！オンラインの学祭は、
学祭専用のサイトに掲載するために
IVUSA 紹介ページを作成したり、
IVUSA 学生同士交流しました！

11月～12月「選挙」



次年度の IVUSA 運営の
中心メンバーを選出する選挙を
実施しました！

10～12月「Y4B」



Y4B は Youth for the Blue の
略称です！社会問題に対し興味関心
を持つと同時に、海ゴミ問題に対する
アクションを広めていく運動として、
街頭や河川沿いを中心とした
清掃活動をしました！

2月～3月

「春のボランティア活動」



地域活性化、環境保護を中心に
全国各地の社会問題に対して、
泊まり込みで活動を行います！
こちらも残念ながら対面での
活動はほとんどできませんでした。

学生インタビュー



2021 年度は文字通りコロナとの闘いの一年でした。

2020 年度と違い、もはやコロナを「言い訳」にできない一方で、「with コロナ」と一口に言えないほど多くの挫折や試行錯誤がありました。

2021 年度、IVUSA の様々な活動を担ってきた学生に率直な感想を聞いてみました。

ピンチをチャンスに



29 期学生代表 本田 七海（国士舘大学卒業）

Q. コロナ禍で活動ができなかった時の葛藤や学生代表としての思いはどうでしたか？

外との関係と内部にそれぞれ問題がありました。外の問題は、現地の人との距離ができてしまうこと。内の問題は現場での経験値の低さによる不安。内外の問題を抱えながらも、活動できることへ感謝を忘れず、再開に向けて活動を模索することを大事にしていました。

Q. コロナ禍で得た成果や課題は？

オンライン活動の可能性を模索し続けたことで活動領域

が広がり、人との距離が「全国一律」になったことが成果の一つ。一方課題としては、入会動機がコロナ禍以前と変化しているにも関わらず、運営側がその変化に十分対応できていないことが課題に挙げられます。

コロナ禍以前の入会動機は人との繋がりが主でしたが、コロナ禍は社会問題に興味があるという理由から入会する会員が多くなっていると思います。この辺りはどちらがよいという問題ではありませんが、さらに詳しく把握する必要があります。

Q. 今後の IVUSA に期待することは？

IVUSA を全国規模で身近に感じられる団体になってほしい！一時期に比べ会員数は減っているが、その横幅が広がったためネットワークを活かせると思います。

①大学規模で爆発的に増加

②既存のクラブ以外の大学から入会者増加で全国に広がる

この①と②をうまく掛け合わせて最強のネットワークを作ってほしいです！

【インタビューー】

山田 英奈（龍谷大学3年）、吉成 美夏（東京家政大学4年）

現地に行けなくても、できることがある

29 期学生執行役員 土家 千夏（立教大学卒業）

Q. コロナ禍で活動をするにあたって葛藤したことや、当時の思いを教えてください。

一番の挫折で葛藤をしたことは、コロナでカンボジアの現地に行けなかったことです。



2年前にした現地の子どもたちとの約束を果たせない申し訳なさがありました。理由はともあれ、子どもたちからしたら再来してくれないというのは事実なので、辛かったです。

国内でスタディツアーをしたのですが、これも当初2月の予定から3月に活動が延期され、挙句の果てに関西と関東の学生が別々でないと活動ができないと決まった時に二度目の葛藤がありました。

一つの隊としてみんなをまとめ上げたかったけど叶いませんでした。またそれはIVUSA全体に責任を持つ執行役員でありながらプロジェクトの運営幹部をしていた立場としての葛藤でもあります。

しかし先輩との約束や想い、これまでの繋がりを、受け継ぎたかったので、運営幹部としてアクションを起こすことを決意してから、活動を終えるまでの間、断じて諦めませんでした。

Q. 活動を終えてから、「やってよかった」と述べているのは何をもってですか？

3月の活動当日に、オンライン越しに2年前に現地でホームステイ先にいた女の子との再会したことが一番印象的です。本来だったら約束を果たせなかったことに対して謝りたかったけど、「ごめんね」よりも先に出たのは「また会いに行くね」というプラスな、未来への希望を託した言葉でした。画面の向こうではあったけど、とにかく嬉しかったです。

新たな約束をしてこれからも繋がれることに、期待が高まりました。同時に、日本で一緒にいてきてくれた隊の皆に、これまで築いてきた現地とのつながりを肌で感じてもらうことができました。

Q. 運営幹部として、モチベーションを維持されていた背景や、感じたことを教えてください。

2年前に9次隊でプロジェクトマネージャーを務めていた先輩との想いを繋げなきゃ、という思いと、現地の女の子と実際に直接約束をしたのは私だから果たさなきゃ、という2つの使命感がありました。

スタッフマネージャーとして隊のみんなと向き合い続けることができたのは、想い・繋がりを残したいと思える後輩に出会えたからです。これからも繋がられる期待ができて、日本国内でもやってよかったと感じました。現地に行ったことのない後輩がほとんどになる中でしたが、国内の活動を共に造り上げることにワクワクしていました。これまで様々な経験をしてきた中で一番考えた期間、活動でした。数カ月の努力をカタチに結び付けることができました。

【インタビュー】

木村 香蓮（恵泉女学園大学2年）

子どもたちの小さな成長に気付けるように



奥山 泰成（中央大学3年）

Q. まずは愛児園について教えてください

児童養護施設であり、養育困難な環境にある子ども、虐待などの理由で養護を必要としている子どもたちが暮らす施設です。高校を卒業する18歳で施設を出なければならぬので、就職や他の施設に行く子どもが多いです。8月にはキャンプ、12月にはクリスマス会など楽しいイベントも開かれます。一日の生活も学校のようにスケジュールが決まっています。

Q. 活動当初に参加しようと思った理由・モチベーションは何ですか

自分がIVUSAに入った理由は子どもの教育支援がしたかったためです。活動の説明会の際に、自分たちは当たり前のようにこうして大学に行き、勉強することができていますが、それは決して当たり前に皆ができることではないという話を聞きました。

大学で学んでいた教育格差や貧困についての問題とも一致する点が多く、子どもたちが学習などでどのような影響を受けているのかを知り、自分に何ができるのかを考えた際に、学習支援や居場所づくりに携わることのできる愛児園の活動に参加したいと思いました。

Q. コロナ禍で活動するに当たっての苦労した点は何ですか？

オンラインでの学習支援はコミュニケーションの取り方が難しいです。お互いに Zoom を使った学習支援の形式に慣れておらず、ボランティアをする学生にとっても愛児園の施設と子どもたちにとっても手探りから始まりました。

当初はアイスブレイクで雑談をしてから勉強に入る予定でしたが、子どもたちは「いきなり勉強からやりたい」と要望して、自分たちも上手く子どもたちと距離を縮める機会がとれずにいました。

あくまでも活動は子どもたちが主体のものであるため、施設の子どものペースを意識しながら活動を進めていきました。子どもたちの年齢や今後を考えれば、「ここまで話しておきたい」という理想は持っていました。あくまで子どもたちに寄り添い、勉強に対する姿勢や子どもたちに正面から向き合うことを優先して、それぞれの子どもの小さな成長に気づくことを心掛けました。

Q. コロナやそのほかの課題をどう工夫して乗り換えてきましたか？

自分が活動に取り組む際に意識していたポイントは2つあり、一つは子どもたちにできる喜びを感じて自信をつけようということ、もう一つは勉強以外のコミュニケーションを楽しんでもらうことでした。

「褒める」というのは単なる誉め言葉をかけるというよりは、以前の子どもの様子と比較して、「以前よりもミスが減ったね」という比較対象を与えて些細な変化に気づかせたり、前回と違うタイプの問題を解かせていたら、「前回と違う問題だったけど良くできたね」と声を掛けたり。一つひとつは何気ないことではありますが、積極的に呼びかけるように気を付けていました。

勉強をする習慣のない子どもでも少しずつ一緒に勉強することで、最初は「できるようになった」「嬉しい」という受動的なリアクションでしたが、次第に「楽しい」と感じてくれるようになってやりがいを感じました。

【インタビュー】

佐藤 瑛恭（東北公益文科大学 4 年）

コロナ禍にどう災害に備え、向き合うか

鈴木 萌香（東洋大学 3 年）

Q. コロナ禍でどんなことを目標にしていましたか？

「災害時に現場に行けるクラブ員を育成する」ことが目標でした。コロナ禍でできることが少ない中で、いざ災害が起こったらすぐに駆けつけられるように知識を持っておくことが大事だと考えました。



Q. コロナ禍で活動が中止になった時、どう感じましたか？

ショックでした。夏プロでは、長野県伊那谷環境保全活動（旧天竜川鷺流峡復活プロジェクト）でプロジェクトマネージャーをやっていたが、活動ができないと知ったとき、「今までやってきたことが全部ゼロになってしまうのではないか」と思いました。

しかし、「現地に行けなくてもできることはないか」という新しい視点で考えるきっかけになりました。

Q. オンライン化になったことでどのような活動の可能性が広がったと思いますか？

全国各地の人と繋がることができます。夏にクラブの災害部会で勉強会を2回実施しましたが、オンラインで自宅から参加することで、より多くの参加者を集めることができました。

その時は、新聞紙を使ってスリッパを作るという企画をしたのですが、自宅にあるものを使って手軽に参加できるという利点がありました。また、打ち合わせが簡単にできるようになり、コミュニケーションも手軽にとれる環境になりました。

Q. 今後、IVUSA でどのようなことに挑戦していきたいですか？

2年生の時（昨年）も災害救援に行かせていただいたり、今も定期的に防災に関するラジオに出演させていただいていたりしたが（かつしかFM）、そこで学んだことを自分だけのものにせず、後輩や同期など色々な人に伝えていきたいです。「こういう時にはこうした方がいい」としっかりアドバイスをできるようになりたいですね。

【インタビュー】

吉田 愛里紗（学習院女子大学 3 年）

岡山県日生諸島活性化活動

●日程

9月10日～11日、3月17日～20日

●参加人数

68名

●活動内容

里海の聖地と言われる日生の海を守るため、オンラインでの地域の方々との交流、海ごみの回収、プラスチック製の漁具を竹材で代替するための試作品の作成、チヌの異常繁殖問題に関するワークショップなどを行いました。

●カウンターパート・協賛等

備前市、一般社団法人みんなでびぜん、里海・里山ブランド推進協議会 withICM、備前観光協会、日生漁業協同組合、備前市地域おこし協力隊



三重県熊野市活性化活動

●日程

8月13日～28日、
11月6日～14日、
2月16日～18日、
3月16日～17日

●参加人数

95名

●活動内容

「若者だからこそ見つけられる若者に刺さる魅力を発見し発信する」活動を展開。熊野市を対面・オンライン両面でのハイブリッド形式で訪問したり、完全リモートで熊野市の方々へのインタビューや動画視聴、インターネットでの調査するなどを通して、地域の魅力をウェブサイトにもまとめ、SNSで発信しました。

●カウンターパート・協賛等

熊野市観光協会、熊野市観光スポーツ交流課、早苗旅館、ホテルなみ、向井ふとん店、irokuma kis



宮城県山元町東日本大震災復興支援活動

●日程

9月23日～26日、10月29日～31日、11月19日～21日、
12月17日～19日、3月10日～13日

●参加学生

91名

●活動内容

拠点とする普門寺（テラセン「お寺災害ボランティアセンター」）に届いた地域の困りごとや、お手伝いニーズの対応。3月は東日本大震災慰霊祭の運営スタッフとして、また慰霊祭、式典のオンライン同時配信や地域の方とのオンラインミーティングを開催しました。

●カウンターパート・協賛等



静岡県西伊豆町活性化活動

●日程

6月25日～27日、7月9日～11日、10月16日～17日、
10月23日～24日、11月6日～7日、11月13日～14日、
2月26日・27日（オンライン）、3月22日～24日

●参加人数

168名

●活動内容

町内の高齢化、過疎化に伴って深刻な課題となっている耕作放棄の問題に対し、学生たちの手で畑を再生し、町内森林の間伐材などから作った炭を畑に使ったクールベジタブルを栽培し、町内での地産地消の展開や商品化を行うことでのブランディングも目指しています。新型コロナウイルスの影響で地域との交流などはできませんでしたが、畑での作付けや収穫をして、町内産直での販売や、お祭りでの販売、東京のレストランへの展開などを行いました。

●カウンターパート・協賛等

西伊豆町役場

※8月8日～21日（3名）、12月27日～1月8日（5名）にインターンを派遣



環境保護事業報告

京都府阿蘇海環境づくり活動

●日程

7月8日、10月21日、
3月5日～6日

●参加人数

55名

●活動内容

地元小学生への環境学習や、オンライン活動としてOBOGや
カウンターパートによる講演や、今後の事業計画を作成しまし
た。

●カウンターパート・協賛等

京都府丹後広域振興局、吉野茶屋、宮津市立吉津小学校



山形県日本海沿岸清掃活動

●日程

11月20日～21日、
3月19日～20日

●参加人数

84名

●活動内容

庄内海岸に潮流と季節風の影響で流れ着くゴミの回収・清掃
活動を山形県遊佐町と鶴岡市で行いました。

●カウンターパート・協賛等

特定非営利活動法人 パートナシップオフィス



千葉市ソーラーシェアリングスタディツアー

●日程

5月23日、6月12日、
7月18日、10月2日、
11月7日、11月14日、
12月4日、12月11日

●参加人数

66名

●活動内容

ソーラーシェアリングとは、農地に支柱等を立てて太陽光パ
ネルを設置し、農業生産と発電とで太陽光を「シェア」する取
り組みです。千葉市緑区の農場（千葉市大木戸アグリ・エナジー
1号機）で農業体験と、太陽光発電の見学をさせていただきました。

●カウンターパート・協賛

千葉エコ・エネルギー株式会社



竹林整備活動

●日程

10月17日、11月21日、
12月19日、3月27日
11月13日（オンライン研修）

●場所

神奈川県こどもの国

●参加者数

106名

●活動内容

こどもの国園内整備活動の支援として開催。竹原から竹林へ
の整備や、活動現場における安全確認や同線の確保の現地研修
として、刃物や道具の使い方を学ぶ場としても活用しています。

●カウンターパート・協賛等

神奈川県横浜市こどもの国



環境保護事業報告

長野県伊那谷環境保全活動

●日程

12月18日～19日、
3月18日～19日

●参加人数

15名

●活動内容

地元団体と協力し、手入れが追いついていない土地での放置竹林整備、今後の作業に向けた足場づくりなどを行いました。

●カウンターパート・協賛等

NPO 法人いなだに竹 Links



長野県信濃町森林整備活動

●日程

1月13日～14日、
11月27日～28日

●参加人数

43名

●活動内容

森林セラピーで活用する野尻湖周辺のゴミ清掃や草刈り、町民の森での伐採された木や枝の回収、運搬作業をしました。

●カウンターパート・協賛等

信濃町森林療法研究所「ひとときの会」、信濃町役場



特定外来生物オオバナミズキンバイ除去活動

●日程

6月27日、7月10日、8月21日、10月31日、11月11日、
11月14日、11月20日、11月21日、12月4日、12月11日、
3月15日

●参加人数

255名

●活動内容

琵琶湖や京都府の鴨川に繁殖している特定外来生物オオバナミズキンバイの除去活動及び、オオバナミズキンバイの問題の認知度を高めるために環境フォーラムで啓発活動を実施しました。

●カウンターパート・協賛等

滋賀県、京都府、玉津小津漁業協同組合、認定 NPO 法人びわこ豊稔の郷、鴨川を美しくする会、一般社団法人鴨川流域ネットワーク

助成：平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」



琵琶湖湖岸清掃活動

●日程

10月31日、
3月23日～25日

●参加人数

127名

●活動内容

琵琶湖のごみは川を経由して海へと流れ、海洋ごみ問題につながります。また、琵琶湖の湖底にも堆積し、生態系への影響も懸念されています。それらの問題の解決に向けて、琵琶湖の沿岸に漂着したゴミの清掃活動を行いました。

●カウンターパート・協賛等

彦根市、米原市



国際協力事業報告

カンボジア教育支援活動国内スタディツアー

●日時

3月14日

●参加人数

60名

●活動内容

過去に学校建設活動を実施したカンボジアのコンポンチャム州コッピアン島のチャンコ村の子どもたちを対象に、クイズなどを用いた衛生教育プログラムを実施しました。

●カウンターパート・協賛

KHJ Construction Co.Ltd



フィリピン減災・環境保全ワークショップ

●日時

3月5日

●参加人数

IVUSA 会員 9 名、OBOG 5 名、
フィリピンの学生 8 名

●活動内容

午前中は OBOG から、これまでのフィリピンの活動の様子について学び、午後はデ・ラ・サル大学ボランティア団体 COSCA-LOVE の学生とお互いの活動内容を紹介するとともに、今後一緒にどんな活動ができるかについて話し合いました。

●カウンターパート・協賛

デ・ラ・サル大学



青山国際教育学院の留学生との交流会

●日時

3月14日

●参加者

学生 5 名、留学生 20 名

●活動内容

日本語を学ぶ留学生とオンラインで交流した。自己紹介、日本についてのクイズ、留学生の生活に関するクイズ、グループトークなどをしました。

●カウンターパート・協賛

青山国際教育学院

災害救援事業報告

令和3年8月佐賀県豪雨災害救援活動

●日程

12月5日、19日

●参加人数

13名

●活動内容

令和3年8月11日からの大雨によって被害を受けた嬉野市・大町町でお茶畑の崩れた石組の復旧作業や、倉庫の設営などを行いました。

●カウンターパート・協賛等

NGO 結・佐賀県災害プラットフォーム (SPF)



令和3年9月長野県茅野市土石流災害復旧支援活動

●日程

10月16日～18日

●参加人数

4名

●活動内容

被害に遭ったお宅や周辺の側溝の土砂撤去や、災害廃棄物の運搬、連携団体が寄贈された花の植栽を行いました。

●カウンターパート・協賛等

茅野市社会福祉協議会、DRT-JAPAN



子どもの教育支援事業報告

学び場イコカナ

●日程

通年（毎週月曜日に実施）

●活動内容

宮坂事務所で、世田谷区内に在住する小学生を対象に、宿題のサポートや大学生との関わりの場づくりに取り組んでいます。

●カウンターパート・協賛等

世田谷区による「子どもの学び場運営スタートアップ支援事業」の補助を受け実施しています。



生活困窮家庭の子ども向け学習支援

●日程

通年

●参加人数

延べ 376 名

●活動内容

貧困の連鎖の防止・解消のため、生活困窮世帯の子どもを対象に、学習支援をメインにしながら、進学・居場所支援の場を提供しています。

●カウンターパート・協賛等

京田辺市、泉大津市、京都市

才教学園 STEAM 教育学習支援

●日程

6月12日、7月8日、
12日～13日

●人数

才教学園 6年生、
教職員計 70 名、
学生 13 名

●活動内容

STEAM 教育の一環として、東北地方への修学旅行前の事前学習としての防災講演会、大学生との交流、体育館での避難所設営のワークショップなどを行いました。

●カウンターパート・協賛等

長野県松本市才教学園



児童養護施設の子どもの向けオンライン学習支援

●日程

通年（137 回開催）

●参加人数

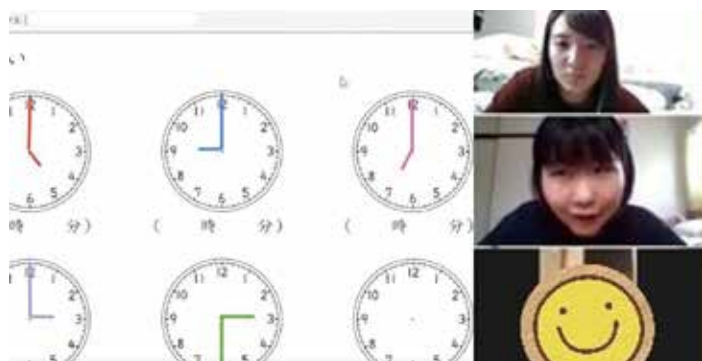
延べ 246 名

●活動内容

児童養護施設の子どもたちを対象にオンラインにて学習支援を行っています。学力向上だけではなく、キャリア教育の要素、年齢の違う他者とのコミュニケーションの取り方などを含めた支援をしています。

●カウンターパート・協賛

児童養護施設 聖母愛児園（新潟県見附市）、
児童養護施設双葉寮（新潟県長岡市）



その他の事業報告

沖縄県戦没者遺骨収集活動

●日程

3月21日～24日

●参加人数

4名

●活動内容

太平洋戦争沖縄戦戦没者の遺骨収集と慰霊のため、発掘調査を糸満市摩文仁で行いました。

●カウンターパート・協賛等

沖縄県平和祈念財団 戦没者遺骨収集情報センター



世田谷区市民活動支援コーナー運営

●日程

通年

●活動内容

世田谷区内の市民活動団体に打ち合わせスペースや印刷機材を貸し出し、市民活動団体活動報告展示会を開催しました

●カウンターパート・協賛等

公益財団法人せたがや文化財団



学生×企業マッチングイベント「職コン」2021(オンライン)

●日程

12月18日

●参加人数

34名

●活動内容

参加企業の担当者の方から企業概要や事業紹介、参加した学生からの質問へのご回答を通じて、企業理解を深め、働くことに対する不安を解消する場を提供しました。

●カウンターパート・協賛等

西菱電機株式会社、ロングライフホールディング株式会社、株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社 KOKUA



研修

IVUSA では、活動に必要なスキルや知識を学ぶ様々な研修を実施しています。さらに、活動や研修を通し、【大学生生活＝社会人になるための準備期間】と位置づけ、社会で活躍できる人材の輩出を目指します。

スタートアップ研修

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：30 名 受講者：1,212 名
- 活動内容

IVUSA の会員として必要な知識や心構えを学ぶとともに、社会人になる準備期間として「自分の可能性を広げる」ための挑戦を促します。

スタッフ研修

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：30 名 受講者：503 名
- 活動内容

スタッフ会員として必要なコミュニケーションスキルや、マネジメントに関する考え方を学びます。

マネジメント研修

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：4 名 受講者：207 名
- 活動内容

クラブやプロジェクトの運営層として必要なチームマネジメントやリスクマネジメントについて学びます。

社会理解講習

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：30 名 受講者 395 名
- 活動内容

活動で対象とする社会課題がなぜ問題になっているのか、今後どんな影響があるのかを学び、自分たちに何ができるのかを考えます。

災害ボランティア入門講座

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：1 名 受講者 69 名
- 活動内容

日本で発生する自然災害の発生メカニズムや今後発生が予測される災害について学ぶとともに、災害ボランティアに必要な心構えや準備について学びます。

インストラクター講習

- 日程 5 月 6 日
- 参加人数 従事者：10 名 受講者：87 名
- 活動内容

インストラクターとして必要な心構え・知識・スキルを学びます。

ロジスティクスマイスター講習

- 日程： 12 月 4 日、12 月 15 日、12 月 18 日、1 月 8 日、1 月 9 日、1 月 30 日
- 参加人数 従事者：15 名 受講者：8 名
- 活動内容

活動の根幹となる移動・食事・住環境・装備について学ぶとともに、活動を行う上での安全管理について学びます。

各種実務研修

- 日程 通年
- 参加人数 従事者：15 名 受講者：493 名
- 活動内容

活動における各役職に求められる役割と、その業務について、必要な知識やスキルを学びます。

ソーシャルサロン

Social Salon とは？

さまざまな社会問題を「ゲストトーク」と「対話」を通して、知り・感じ・考えながら、“自分ゴト” にしていく学びの場です。

■異なる視点の 2 人以上のゲストトーク

(支援者と当事者、研究者と実践者など)

■参加者全員で、少人数に分かれて対話 TIME

「自分は感じる？」、「どんな社会になったらいい？」

「自分に何ができる？」



- 7 月 4 日 テーマ：国際協力 参加人数 :25 名

【ゲストスピーカー】橋本典子さん(フィリピン)、伊達文香さん(インド)、藤原愛さん(カンボジア)

- 8 月 29 日 テーマ：トランスジェンダー～「LGBTQ って言葉、知ってる！」のその先へ～ 参加人数 :50 名

【ゲストスピーカー】勝又栄政さん、釜場彩葵さん

- 10 月 16 日 テーマ：“気候変動” って、一体何が起こるの…？ 参加人数 :20 名

【ゲストスピーカー】吉岡渚さん、馬上丈司さん

- 12 月 19 日 テーマ：刑務所からの出所者の社会復帰や支援と、社会の現状 参加人数 :30 名

【ゲストスピーカー】千葉龍一さん、竹田淳子さん

Interview with Supporters



三菱マテリアル株式会社

総務部総務室長 依田 敏 氏

IVUSA の活動は、カウンターパートだけではなく、支援してくださる多くの企業・団体の方によって支えられています。

昨年から法人会員になってくださった三菱マテリアル株式会社と、長年様々な活動で一緒させていただいている青山国際教育学院を紹介させていただきます。三菱マテリアル株式会社総務部総務室長の依田敏さんと、青山国際教育学院院長の村上誠さんにインタビューさせていただきました。

■会社の概要

三菱マテリアルグループは「人と社会と地球のために」という企業理念のもと「ユニークな技術により、人と社会と地球のために新たなマテリアルを創造し、持続可能な社会に貢献するリーディングカンパニー」となることをビジョンとしています。

銅を中心として非鉄金属の基礎素材から、金属加工、半導体関連・電子部品、超硬工具、環境・エネルギービジネスなど、多角的に事業を展開しています。

■150 周年の記念事業として

当社は三菱グループのルーツである九十九(つくも)商会在 1871 年に炭鉱・鉱山業への進出を出発点としており、2021

年 5 月に創業 150 周年を迎えました。

150 周年を記念した事業をすることになり、その中で社会貢献活動に関することも行うことになりました。この社会貢献活動については、単発のものではなく、長く続けてやっていきたいと考え、具体的なアクションを社内で検討してきました。

自分たちでできることは限られてしまうこともあり、「子ども」「学生」「難民」をキーワードに、社会課題の解決にとりくむ団体を細く長く支援し、協力していくという考えにまとまりました。

IVUSA の「学生が参加していること」「子どもの支援をしていること」「環境保全活動、災害救援活動をしていること」等から、寄付先に決めました。

■社員を活動に参加させたい

今後も継続した支援を考えています。当社は新入社員にボランティア活動の参加を義務付けており、IVUSA の活動も活動先の候補としてぜひ紹介したいと考えています。

また、IVUSA が行っている「子どもの支援」「海外での活動」「地域活性化事業」等にも、間接的な貢献に繋がるので、さまざまな活動に役立てていただきたいと思います。

Interview with Supporters

青山国際教育学院

村上 誠 学院長



IVUSA と初めて出会ったのは確か 1998 年に行った「就学生スポーツと文化の祭典」というイベントの時だったと思います。IVUSA にも運営を手伝ってもらったのがきっかけだったと記憶しています。2003 年に IVUSA が主催にした「日本語学校スポーツフェスタ」では、青山国際教育学院が優勝しました。

その後も、当学院の留学生と IVUSA の学生のリクリエーションを中心とした交流を続けてきました。留学生としても学校とバイトが忙しくて日本人と交流する機会がほとんどないということで、学校としてセッティングしたわけです。

その後も、日本語スピーチコンテストの審査員を下村代表をお願いしたり、IVUSA の学生を長期バイトで受け入れたりいろいろなことを一緒にやってきました。

スイッチが入っていないまま話してしまいましたが（笑）。

ほぼ同時期に、同じような目的と「熱い」思いが同じの両者が、学生の交流を通じて、お互いに刺激を受けて発展し、拡大していったと思います。途中からは IVUSA が他大学も巻き込み大きく拡大していきました。

私たちもそれなりに頑張りましたが、IVUSA のスピードが速すぎて、ついて行けない今日この頃です。



あまりにも長いお付き合いなので、昔のことはあまり思い出せないくらいです。そういえば IVUSA の創設 20 周年記念の行事でもご挨拶させていただきましたね。マイクの

さて、当学院の留学生も多国籍化が進んでいます。ロシアとウクライナの学生もいますが、当人たちは仲良くやっています。今はウクライナから避難した方々に日本語学習の場を無料で提供しています。詳しくは→ <https://www.jsus.info/jp/>

教育は半分ボランティアのようなところがあるので、そういった意味でも IVUSA とはウマが合っていると思いますね。

コロナも落ち着いてきましたし、学生同士の交流の場を今後も広げていきましょう。



 **中国語**  **韓国語**



クラスレッスン

2名～6名の少人数制ですので、きめ細かい授業が行えます。



プライベートレッスン

一対一でじっくりと「わかる」「使える」実践的なスキルを身につけます。



企業派遣

ご要望を調査し、目標に向けたオリジナルカリキュラムを作成。



表参道から徒歩5分

学校や会社のあとにも通える便利な立地です。



青山国際教育学院

TEL : 03-3403-1901

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-40 青山センタービル3F



メディア掲載一覧

No	活動名	掲載メディア	掲載日
1	山形クリーン作戦	山形新聞、荘内日報	2021年3月17日
2	才教学園小学校講演会	中日新聞、信濃毎日新聞	2021年6月13日
3	長野県茅野市土石流災害救援活動	長野日報	2021年10月19日
4	世界湖沼会議での活動事例発表	NHK ニュース、びわ湖放送、京都新聞、毎日新聞	2021年11月11日
5	静岡県西伊豆町でのインターンシップ	あなたの静岡新聞	2021年12月31日
6	淡路島のため池保全推進セミナー	読売新聞	2022年1月28日
7	宮城県山元町東日本大震災復興支援活動	河北新報	2022年3月13日
8	三重県熊野市活性化活動	中京テレビ、CBC テレビ、NHK 津放送局 中日新聞 三重版	2022年3月17日 2022年3月19日



① 2021年3月17日付「山形新聞」



② 2021年6月13日付「中日新聞」



③ 2021年10月19日付「長野日報」



④ 2021年11月11日付「毎日新聞」



⑤ 2021年12月31日付
「あなたの静岡新聞」



⑥ 2022年1月28日付「読売新聞」



⑦ 2022年3月13日付「河北新報」



⑧ 2022年3月19日付「中日新聞」

協賛一覧

■物品協賛

株式会社はくばく

株式会社イナバ

株式会社シバタ

株式会社伊藤園

久富勝株式会社

株式会社メイダイ

株式会社ディックコーポレーション

株式会社コジット

五洲薬品株式会社

株式会社KOKUA

株式会社MonotaRO

ダイヤ製薬株式会社

東京サラヤ株式会社

株式会社ニイタカ

ジェントス株式会社

システム・シャイン・サービス株式会社

ミドリ安全株式会社

兼一薬品工業株式会社

モンスターエナジージャパン合同会社

一般社団法人 食品ロス・リボーンセンター

■法人会員

カタール航空

三菱マテリアル株式会社

西菱電機株式会社

青山国際教育学院

■寄付

グルーヴァース株式会社

収支報告書

2021年度 活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
入会金	6,355,000		
学生会員受取会費	24,174,000		
その他の会員受取会費	1,836,000	32,365,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	422,453		
受取寄附金（募金）	98,614	521,067	
3 受取助成金等			
受取助成金	26,027,436		
受取補助金（業務委託収入）	12,393,162	38,420,598	
4 事業収益			
活動・研修等参加費収入	12,265,997	12,265,997	
5 その他収益			
受取利息	856		
雑収入	1,098,859	1,099,715	
経常収益計			84,672,377
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	39,765,470		
法定福利費	5,816,634		
人件費計	45,582,104		
(2)その他経費			
その他事業費	18,028,798		
期首商品棚卸高	3,489,062		
期末商品棚卸高	▲ 3,439,243		
その他経費計	18,078,617		
事業費計		63,660,721	
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	2,750,000		
給料手当	1,755,360		
法定福利費	226,488		
福利厚生費	79,032		
人件費計	4,810,880		
(2)その他経費			
賃借費	9,068,750		
旅費交通費	557,315		
車両費	280,062		
通信費	165,991		
消耗品費	635,650		
諸会費	226,000		
租税公課	1,192,426		
支払手数料	192,507		
荷造り運搬費	114,900		
会議費	269,549		
慶弔費	60,000		
水道光熱費	540,929		
減価償却費	0		
図書情報費	60,039		
雑費	9,900		
業務委託費	2,800,700		
リース費	645,871		
ネット関連費	1,033,621		
ゴミ処理費	107,886		
その他経費計	17,962,096		
管理費計		22,772,976	
経常費用計			86,433,697
当期経常増減額			▲ 1,761,320
III 経常外収益			
為替差益	229,717		
経常外収益計		229,717	
IV 経常外費用			
為替差損	0		
経常外費用計		0	
税引前当期正味財産増減額			▲ 1,531,603
法人税、住民税及び事業税			150,000
当期正味財産増減額			▲ 1,681,603
前期繰越正味財産額			84,226,338
次期繰越正味財産額			82,544,735

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
所在地	〒156-0051 東京都世田谷区宮坂1-34-4 ザ・アゼリアハウスB-102
代表理事	下村 誠
設立	1993年（法人格取得2002年5月）
拠点	本部事務局 三軒茶屋出張所 関西事務所

■理事一覧

下村 誠	代表理事
村橋 克則	大正大学教授
風間 穰	東京都議会議員
中嶋 信行	日本マイクロソフト株式会社
赤木 衛	特定非営利活動法人ジェイワイエムエイ理事長 株式会社東京アイデアフォース代表取締役社長
伊藤 章	IVUSA事務局 特定非営利活動法人ボランティア活動推進国際協議会日本理事長
藤本 行和	東京消防庁
阿部 博志	株式会社ダイテックス代表取締役
桑原 望	新潟県長岡市議会議員
伊藤 美樹	株式会社日立製作所
大槻 泰輔	飲食店経営
宮崎 猛志	IVUSA事務局 せたがや防災NPOアクション代表
谷口 純平	副代表理事
高井 洋季	静岡県西伊豆町地域おこし協力隊
本田 七海	29期学生代表（国士舘大学）

■監事

星 昭良	SPK株式会社
------	---------

■特別顧問一覧

弓削 昭子	法政大学教授・元UNDP駐日代表・総裁特別顧問
小田 兼利	日本ポリグル株式会社代表取締役会長
山村 武彦	防災システム研究所所長
市川 啓一	株式会社レスキューナウ危機管理アドバイザー
朴 宇一	韓国ハンセン氏病患者支援団体「常緑会」代表
Shant amrita chaitanya	僧
池谷 啓	フリーライター
三浦 宏一	一般社団法人世界貿易センター東京理事長
早坂 毅	NPOコンサルタント・税理士
廣渡 謙二	株式会社メディック代表取締役
黒澤 司	公益財団法人日本財団
平田 大六	新潟県関川村前村長
小村 隆史	常葉大学准教授

■パートナーシップ一覧

公益財団法人車両競技公益資金記念財団
韓国・GreenNet韓国青少年連盟
中国・ハルビン市科学技術協会
株式会社レスキューナウ
中国青年国際人材交流中心
各地区青年連合会・共産党青年団各地区委員会
千代田区社会福祉協議会
日野市社会福祉協議会
京都府丹後広域振興局
新潟県関川村
静岡県西伊豆町
茨城県古河市
三重県熊野市
岡山県備前市



IVUSA では今後、学校への SDGs の出張授業に力を入れていきます。

29期学生組織

■学生代表

本田 七海 (国士舘大学4年)

■学生組織執行役員 (学生幹部役員)

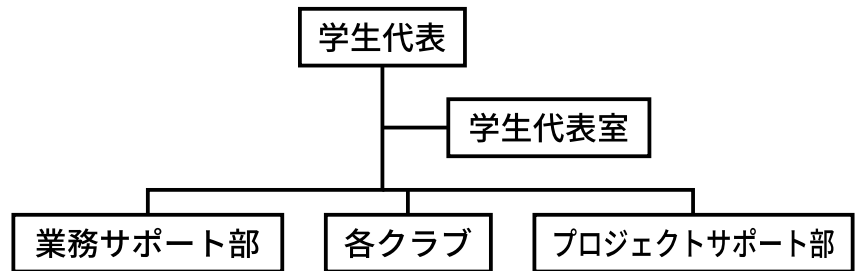
浦野 柊紀 (高崎経済大学4年)

熊谷 鷹治 (高崎経済大学4年)

黒田 桔平 (関西大学4年)

土家 千夏 (立教大学4年)

矢澤 成珠 (東洋大学4年)



■クラブマネージャー (50音順)

群馬高崎クラブ 相木 美穂 (高崎経済大学3年)

京都深草クラブ 井上 太一 (龍谷大学3年)

東京板橋クラブ 上杉 佳菜 (東京家政大学3年)

東京市ヶ谷クラブ 榎本 亮太 (法政大学3年)

東京白山クラブ 落合 加奈 (東洋大学3年)

山形酒田クラブ 小野寺 流菜 (東北公益大学3年)

京都今出川クラブ 岸本 涼子 (同志社大学3年)

神奈川白楽クラブ 木村 竜之介 (神奈川大学3年)

埼玉越谷クラブ 栗田 季南 (埼玉県立大学3年)

東京砧クラブ 小林 宏紀 (日本大学3年)

東京駒澤クラブ 佐藤 桃子 (國學院大学3年)

東京世田谷クラブ 澤島 隼也 (国士舘大学3年)

大阪高槻クラブ 塩津 功輝 (関西大学3年)

大阪吹田クラブ 島田 晴 (関西大学3年)

滋賀瀬田クラブ 下嶋 毅 (龍谷大学3年)

大阪茨木クラブ 鈴木 和也 (立命館大学3年)

長崎佐世保クラブ 高橋 歩夢 (長崎県立大学3年)

東京日野クラブ 高橋 和 (恵泉女学園大学3年)

東京多摩クラブ 竹内 美佳子 (法政大学2年)

京都西院クラブ 竹平 黎 (京都外国語大学3年)

東京八王子クラブ 玉井 慎吾 (拓殖大学3年)

大阪東大阪クラブ 野々上 昂汰 (近畿大学3年)

滋賀草津クラブ 平井 悠空 (立命館大学3年)

東京小日向クラブ 星 翔 (拓殖大学3年)

東京大塚クラブ 前田 夏未 (跡見学園女子大学3年)

京都京田辺クラブ 正木 研史郎 (同志社大学3年)

東京三崎町クラブ 三井 一輝 (日本大学3年)

兵庫西宮クラブ 森 洋翔 (関西学院大学3年)

京都衣笠クラブ 森本 泉貴 (立命館大学3年)

京都上賀茂クラブ 山根 佑基 (京都産業大学4年)



IVUSA の活動の根幹を担うドライバーや調理、装備管理を担う「マイスター」を育成する合宿を行っています。



熱意は人を動かし、社会を動かす®

<https://www.ivusa.com/>

2022年 7月

発行・編集：特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会（IVUSA）

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com